

PRESS RELEASE

2020/12/1 [2021/4/1 改訂]

ミケル・バルセロ展

2021年3月20日(土・祝) - 5月30日(日)

国立国際美術館



ミケル・バルセロ《とどめの一突き》1990年 作家蔵 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
Photo by André Morin

開催情報

展覧会名 ミケル・バルセロ展
欧 文 MIQUEL BARCELÓ
主 催 国立国際美術館、読売新聞社
後 援 スペイン大使館、インスティトゥト・セルバンテス東京、
在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本
協 賛 ダイキン工業現代美術振興財団
制作協力 ファクト・コンセプトウール、瀧脇千恵子
会 期 2021年3月20日(土・祝) — 5月30日(日)
会 場 国立国際美術館 地下3階展示室(〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55)
開館時間 10:00 — 17:00、金曜・土曜は20:00まで ※入場は閉館の30分前まで
休 館 日 月曜日(ただし、5月3日(月・祝)は開館)
観 覧 料 一般1,200円(1,000円) 大学生700円(600円)
()内は20名以上の団体および夜間割引料金(対象時間:金曜・土曜の17:00—20:00)
高校生以下・18歳未満無料(要証明)・心身に障がいのある方とその付添者1名無料(要証明)
本料金で同時開催のコレクション展もご観覧いただけます。

本展は新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで開催いたします。
都合により、会期および開館時間などが変更になる場合があります。最新情報は当館ホームページ
などでご確認ください。URL <https://www.nmao.go.jp/>
一般のお客様からのお問い合わせ先 国立国際美術館 TEL: 06-6447-4680(代表)

交通アクセス

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」(2番出口)から南西へ徒歩約5分
Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)から西へ徒歩約10分
JR「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約20分
JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」(2番出口)から南へ徒歩約10分
阪神電車「福島駅」(3番出口)から南へ徒歩約10分
Osaka Metro 御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」(7番出口)から西へ徒歩約15分
大阪シティバス「大阪駅前」から、53号・75号系統で、「田菱橋」下車、南西へ徒歩約3分
当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。
心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

同時開催 3月20日(土・祝) — 5月30日(日)「コレクション3 見えるものと見えないもののあいだ」

次回展 6月29日(火) — 9月23日(木・祝)

「Viva Video! 久保田成子展」、「鷹野隆大 毎日写真1999—2021」

開催趣旨

スペイン国内外で多彩かつ精力的に制作活動を展開してきたミケル・バルセロ（1957-）は、現代のアートシーンを牽引する美術家の一人です。国立国際美術館、長崎県美術館、三重県立美術館、東京オペラシティ アートギャラリーを巡回する本展覧会プロジェクトは、日本国内で初めて彼の仕事の全貌を紹介するものであり、自然世界に開かれた豊かな感受性が力強いエネルギーによる創造へと昇華していくバルセロ芸術に迫ることのできる格好の機会といえます。

バルセロは 1982 年の「ドクメンタ 7」で国際的なデビューを果たして以来、華々しい成果を見せ続けてきました。20 世紀の美術史にその名を刻む巨匠たち、パブロ・ピカソやジョアン・ミロのように、彼の制作は、まずその豊かな多様性に特徴づけられます。バルセロは美術におけるジャンルの垣根を軽快かつ自在に飛び越え、多彩な制作手法を試し、いずれにおいても創造性に溢れた独自の作品を結実させてきました。様々なメディアウムを駆使して絵画や彫刻を手掛けつつ、陶芸やパフォーマンスにおいても彼独自の世界観を呈示しています。また、荘厳なるゴシック建築として名高いパルマ大聖堂（スペイン・マジョルカ島）ではテラコッタによる壁画装飾（2007）を、スイス・ジュネーヴの国連本部では人権理事会議場の天井画（2008）を手掛けるなど壮大なプロジェクトの数々も実現させており、その芸術的探求は近年においても止まるところを知りません。生地であるマジョルカ島の豊かな風土、異文化が交差する大都市パリ、太陽が燦々と照らすアフリカの乾いた大地、峻厳たるヒマラヤの高原など、バルセロは世界の各地にアトリエを構え制作する中で自身の芸術を確立させてきました。そこでは動植物、海と大地、闘牛、肖像といったテーマが確固たる地位を占めており、いずれの作品も彼の自然世界に対する深い愛情や尊敬、畏怖の念に根差しています。と同時に、彼はスペイン近現代美術の伝統的な潮流にも関心を寄せつつ、鋭敏な感性をもって国際的な現代アートのコンテクストも視野に捉えてきました。

きわめて多彩な相貌を見せるバルセロ芸術の全容に迫る本展では、彼の初期から現在に至るまでの制作活動を約 100 点もの作品によって振り返ります。そのうち過半数を占めるのは絵画作品であり、彼の生涯のテーマが多様な素材や技法を駆使して表現されてきたことを看取できます。有機物など特異な素材を使用した大規模なカンヴァス作品は時に古代の洞窟壁画を想起させ、時に海洋世界の深淵へと観る者を対峙させるでしょう。また、高度な表現力に裏打ちされたブリーチによる肖像画、世界各地の風土を捉えた瑞々しいスケッチや水彩画の数々も並びます。これら絵画に加えて、ユニークな主題に基づくブロンズ彫刻、大地の芸術たるセラミック作品など多数の作品を紹介し、バルセロが切り開いてきた芸術の地平の広大さと懐の深さを堪能できる構成となっています。

[展覧会監修]

山梨俊夫（国立国際美術館前館長）

エンリケ・フンコサ（美術批評家、アイルランド国立美術館前館長）

本展のみどころ

- 現代のスペインを代表する美術家ミケル・バルセロの、日本では初めてとなる大規模な個展。日本初公開作品も多数。
- 初期の作品から最新作まで、半世紀近くにわたる創作活動を紹介。
- 絵画、ブロンズ彫刻やセラミック作品など約 100 点の作品により、バルセロが切り開いた芸術世界をご覧ください。

ミケル・バルセロ

Miquel Barceló

1957 年、スペイン・マジョルカ島ファラニチに生まれる。パルマ・デ・マジョルカの美術学校でドローイングと立体表現を学ぶ。1976 年、前衛芸術家集団のハプニング活動に参加。同年、最初の個展では絵画と食べ物や有機物を組み合わせる試みとして、様々な物体を入れた箱の作品を展示する。「ドクメンタ 7」（1982、ドイツ・カッセル）以降、国内外のギャラリーや美術館で作品を展示。80 年代にはヨーロッパやアメリカ合衆国など世界各地に旅行し、西アフリカには 1988 年に初めて訪れて以来、マリにアトリエを構え繰り返し滞在するようになる。

ジュ・ド・ポーム国立美術館（パリ）とポンピドゥーセンター（パリ）での同時開催展（1996）、第 53 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展スペイン代表（2009）のほか、パルマ大聖堂（スペイン・マジョルカ島）のサン・ペール礼拝堂の装飾（2007）や、スイスの国連本部の天井画（2008）などを手掛ける。ジョゼフ・アヴィニョン演劇際（フランス）での公演「パソ・ドブレ」（2006）などの舞台芸術にも携わり、またパフォーマンスも精力的に上演。先史時代の洞窟壁画や動物描写に強い関心を持ち、2015 年にショーヴェ洞窟（フランス・アルデシュ県）のレプリカが一般公開される際にはプロジェクトの推進メンバーに名を連ねた。

2013 年、フランス文化省より芸術文化勲章「オフィシエ」を受賞、2020 年にはスペイン・カタルーニャ自治州政府よりサン・ジョルディ十字勲章を受賞。

日本での大規模な個展は今回が初となる。

広報画像



《とどめの一突き》1990年
ミクストメディア/カンヴァス 200×203×5 cm
作家蔵 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
Photo by André Morin



《下は熱い》2019年
ミクストメディア/カンヴァス 234.5×285×9 cm
作家蔵 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
Photo by Agustf Torres



《巫船の白：弾丸の白》1992年
ミクストメディア/カンヴァス 300×200×7 cm
作家蔵 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
Photo by André Morin



《カピロテを被る雄山羊》2006年
ブロンズ 200×170×60 cm
作家蔵 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
Photo by Galerie Bruno Bischofberger



《恐れと震え》2018年
ミクストメディア/カンヴァス 243×244×13.5 cm
作家蔵 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
Photo by Galerie Bruno Bischofberger



《トーテム》2019年
セラミック 176×217×77 cm
作家蔵 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021
Photo by David Bonet

広報画像は、本展の広報を目的とした場合に限り、ご使用いただけます。

「広報画像申込書」にて申請していただきますようお願いいたします。

「広報画像申込書」は、国立国際美術館のホームページからダウンロードしていただけます。

国立国際美術館「プレスの方へ」 URL <https://www.nmao.go.jp/press/>

画像の使用にあたって、次の点をお守りいただきますよう、お願いいたします。

- ・画像と一緒に送るキャプションおよびクレジットを明記してください。
- ・画像のトリミングや、画像に文字を重ねての使用はできません。
- ・インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
- ・会期・会場・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で広報担当までメールまたはFAXにてお送りください。
- ・掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛にお送りください。
- ・インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。使用後は画像データを破棄してください。

広報に関するお問い合わせ先

国立国際美術館 広報担当 冬木 明里

E-mail: kouhou@nmao.go.jp TEL: 06-6447-4671（直通） FAX: 06-6447-4699

展覧会担当 安來 正博（国立国際美術館 上席研究員）